

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国際日本文化研究センター
総合地球環境学研究所
国立民族学博物館

令和7年4月19日（土）
近畿地区国立大学法人等職員採用合同説明会



大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

目次

1. 大学共同利用機関法人とは
2. 人間文化研究機構の目標
3. 人間文化研究機構各機関の所在地
4. 組織図
5. 役職員数
6. 人間文化研究機構の事務組織
7. 職務内容について
8. 人事異動について
9. 勤務条件について
10. 研修について
11. 男女共同参画の推進
12. 各機関についての説明



大学共同利用機関法人

人間文化研究機構

Ⅰ. 大学共同利用機関法人とは

大学共同利用機関は、全国の国公立大学の研究者のための学術研究の中核拠点として、個別の大学では整備や維持が困難な、大規模な施設や設備、膨大な学術資料やデータなどの知的基盤、ネットワーク型共同研究や新分野開拓のための中核的機能と場を全国の研究者の利用に供し、効果的な共同研究を実施することで、我が国の学術研究の発展に重要な貢献をしています。



大学共同利用機関法人は、学術研究のダイナミックで総合的な発展を目指し、大学共同利用機関の特性と実績を活かして、大学研究者等との共同研究をさらに発展させるとともに、大学附置研究所等との連携を強化することを目的として、国立大学法人法に基づき、平成16年4月に既存の16の大学共同利用機関を4つの機構に再編し、設置されました。人間文化研究機構は、その4つの法人のうちのひとつになります。

2. 人間文化研究機構の目標

人間文化研究機構の6機関は、それぞれが所蔵する膨大な資料の公開や、それらを通じた共同研究に実績があります。人文学の資料の体系的公開や人間文化の多様性と普遍性に関する研究を推進することにより、人間文化のより広く深い理解を達成し、さらにそれを研究者コミュニティだけでなく、社会に還元することが、人間文化研究機構の目標です。

<以下参考>

○人間文化研究機構ホームページ

<https://www.nihu.jp/ja>

○人間文化研究機構 第4期中期目標・中期計画

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/detail/1386151_00009.htm



大学共同利用機関法人

人間文化研究機構

3-1. 人間文化研究機構各機関の所在地



3-2. 人間文化研究機構各機関の所在地



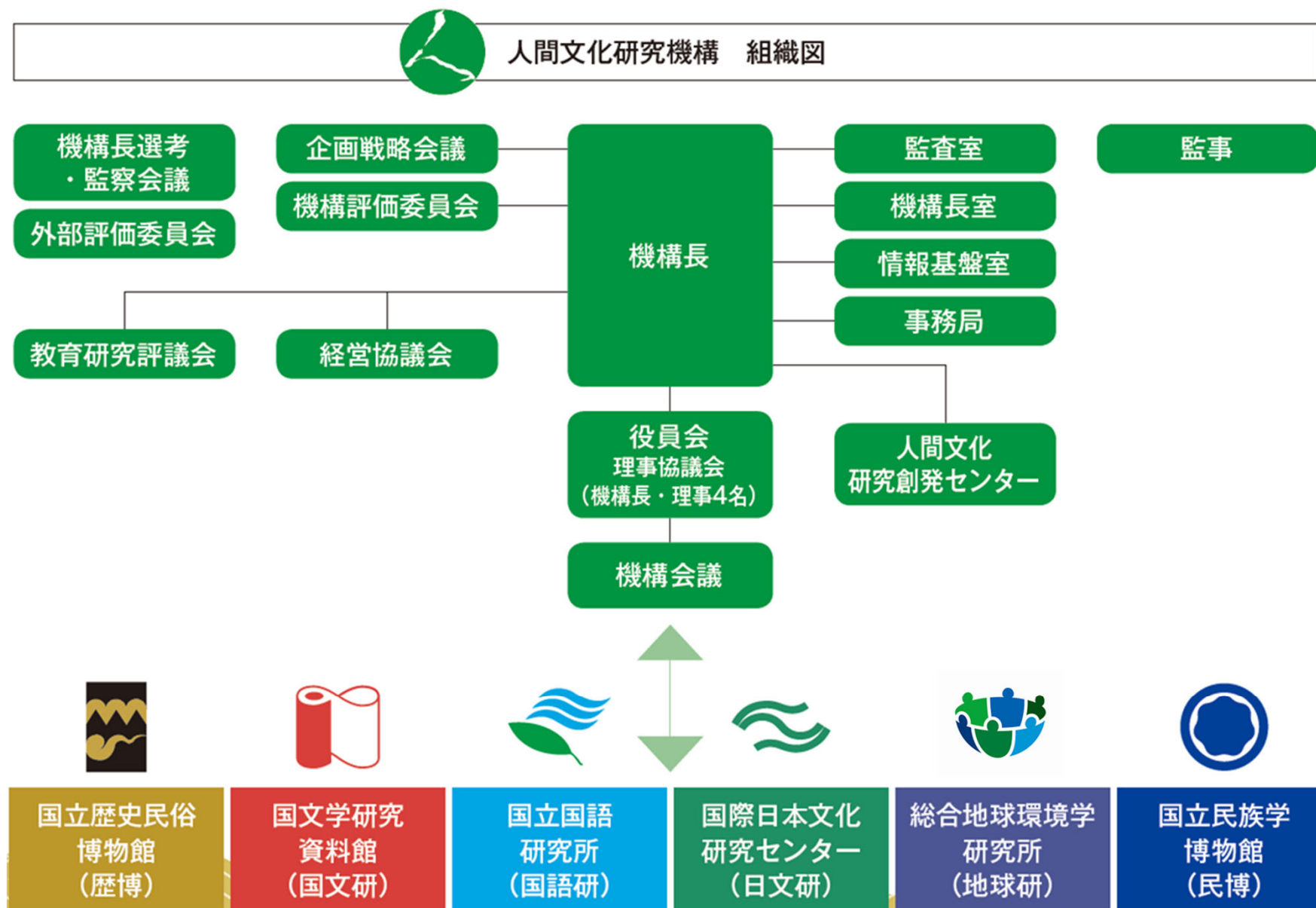
※近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験事務室ホームページより

大学共同利用機関法人人間文化研究機構

- 18 国際日本文化研究センター 🔍
- 19 総合地球環境学研究所 🔍
- 20 国立民族学博物館 🔍



4. 組織図



5. 役職員数（令和7年4月1日現在）

・ 役員（非常勤を含む）	7 人
・ 館長、所長	6 人
・ 研究教育職員	1 6 2 人
・ 事務・技術職員	2 4 6 人
・ 研究員等その他職員	9 7 人
計	5 1 8 人



大学共同利用機関法人

人間文化研究機構

6. 人間文化研究機構の事務組織

事務職員・技術職員
246人

本部

監査室 機構長室
情報基盤室
人間文化研究創発センター

事務局長

総務課

研究企画課

財務課

施設課

27人

国立歴史民俗博物館

管理部長

総務課

財務課

研究協力課

博物館事業課

広報課

45人

国文学研究資料館

管理部長

総務課

財務課

学術情報課

37人

国立国語研究所

管理部長

総務課

財務課

研究推進課

業務支援室

23人

国際日本文化研究センター

管理部長

総務課

財務課・検収室

情報管理課

研究協力課

41人

総合地球環境学研究所

管理部長

総務課

研究支援課

財務課

業務監査室

25人

国立民族学博物館

管理部長

総務課

財務課

研究協力課

企画課

情報課

48人

8. 人事異動について

○概ね2年から3年で他の部署へ異動

○機構内での異動

原則として、近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験を経て採用になった方の異動は関西地区の3機関内となりますが、職員個人の事情や希望も考慮したうえで、関東地区への異動、文部科学省、国立大学法人等への異動を命じることもあります。

(関東地区) ・ 機構本部

・ 国立歴史民俗博物館

・ 国文学研究資料館

・ 国立国語研究所

(東京都港区)

(千葉県佐倉市)

(東京都立川市)

(東京都立川市)

(関西地区) ・ 国際日本文化研究センター (京都市西京区)

・ 総合地球環境学研究所 (京都市北区)

・ 国立民族学博物館 (大阪府吹田市)

9-1. 勤務条件について

○給 与

- ・ 本 給：各人の経歴等によって決定
- ・ 手 当：地域手当、通勤手当、住居手当、扶養手当、
超過勤務手当など
- ・ 賞 与：期末手当、勤勉手当（6月、12月）
- ・ 昇 給：1年に1回、勤務成績に応じて昇給

9-2. 勤務条件について

○勤務形態

- ・勤務日：月曜～金曜
- ・休日：土曜・日曜（週休2日）、
祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

※業務の都合により、休日と勤務日を振り替えることがあります。

- ・勤務時間：日文研 8時30分～17時00分（1日7時間45分）
地球研、民博 フレックスタイム制
（コアタイムは10時～15時、
1か月の労働時間は7時間45分×1か月あたりの勤務日数）

9-3. 勤務条件について

○休 暇

- ・ 年次休暇：年20日付与
- ・ 特別休暇：夏季、リフレッシュ、結婚、産前、産後、忌引、病気 など
- ・ 休業制度：育児、介護 など

○福利厚生

- ・ 文部科学省共済組合（※）加入
 - ⇒健康保険、老齢・障害・遺族年金
 - ⇒出産・育児・介護などにかかる給付
 - ⇒貯金・保険事業、各種貸付制度、宿泊施設の割引制度 など

※文部科学省共済組合 <https://www.monkakyosai.or.jp/shikumi/01.html>

- ・ 雇用保険、労災保険に加入
- ・ 健康診断

10. 研修について

人間文化研究機構では、採用後のスキルアップ、キャリア形成のため、機構本部、各機関で行われる研修をはじめ、外部機関で行われる研修会等へ参加しています。

○新任職員研修

○階層別研修（課長研修、係長研修、中堅係員研修など）

○各種専門分野別研修

情報セキュリティ、個人情報保護、リスクマネジメント、広報、
産学連携・知財、労働安全衛生、学生支援、交渉力、財務

○若手職員勉強会 など



11-1. 男女共同参画の推進

人間文化研究機構では、男女共同参画委員会を設置し、男女共同参画推進に関する講演会の開催、ベビーシッター利用補助、病児・病後児保育利用補助などをおして、男女共同参画の推進に取り組んでいます。

○育児支援

- ・ 育児休業 ⇒ 3歳に達する日まで
- ・ 育児部分休業 ⇒ 1日につき4時間の範囲内で勤務時間を短縮（小学校就学前まで）
- ・ 出生時育児休業⇒ 子の出生後8週間の期間内に4週間以内（分割して2回まで取得可）
- ・ 特別休暇 ⇒ 子の看護等のために年5日（小学校3年生修了まで）、
妻の出産の立会等（2日）、出産に伴う子の養育（5日）
- ・ ベビーシッター利用補助
⇒ ベビーシッターによる保育サービスを利用した際の料金の一部を補助
（1日最大3,000円、1年度最大15,000円まで）
- ・ 病後児保育利用補助
⇒ 病中・病気回復期に保育サービスを利用した際の料金の一部を補助
（1日最大3,000円、1年度最大15,000円まで）

11-2. 男女共同参画の推進

○介護支援

- ・ 介護休業 ⇒ 通算して186日を越えない範囲内で3回を上限
- ・ 介護部分休業 ⇒ 1日につき4時間の範囲内で勤務時間を短縮
(3年間の範囲内で)
- ・ 特別休暇 ⇒ 介護休暇



引き続き各機関の説明を行います。



大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

12. 各機関についての説明

国際日本文化研究センター

<https://www.nichibun.ac.jp/ja/>

総合地球環境学研究所

<https://www.chikyu.ac.jp/>

国立民族学博物館

<https://www.minpaku.ac.jp/>



大学共同利用機関法人

人間文化研究機構



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国際日本文化研究センター

International Research Center for Japanese Studies

■ 日文研とは・・・

国際日本文化研究センター（日文研）は、日本文化に関する国際的・学際的な総合研究と世界の日本研究者に対する協力・支援を行うことを目的として、昭和62（1987）年に設置されました。

日文研は、日本の文化・歴史を国際的な連携・協力の下で研究するとともに、外国の日本研究者を支援するという大切な使命をもった大学共同利用機関です。この使命を推し進めるために、国内外から参加する多様な専門領域の共同研究員による、分野横断的な日本文化に関する研究を展開しています。また、海外から人文・社会科学等の諸分野の研究者を招いて最新の成果や情報に基づく自由で創造的な研究活動を行うとともに、その情報を発信するなど、日文研は、日本研究の国際的拠点としての役割を担っています。

■ 日文研の役割

- 日文研は、国際的・学際的・総合的な観点から、日本文化に関する研究課題を設け、国内外から参加する様々な分野の研究者による共同研究に取り組んでいます。
- 共同研究を「自然観と人間観」「文化と権力」「大衆文化研究の展開」という3ユニットに分類し、柔軟な組織・運営により推進しています。
- 世界各地の日本文化の研究者・研究機関に、研究情報を発信するとともに、実情に応じた研究協力を行っています。
- 研究成果は、多言語による図書・学術雑誌、講演会、シンポジウムなど様々な形で広く国際社会に提供しています。
- 総合研究大学院大学 国際日本研究コース 博士後期課程では、次代の研究者養成に努めています。また、国内外の大学院生・留学生を受入れて指導しています。

■社会貢献

学術講演会、一般公開、日文研—京都アカデミックブリッジ、日文研×読売 Bizフォーラム東京などを開催しているほか、地域の小学校への出前授業も実施しています。



■図書館

日本研究に必要な各種資料を幅広く収集し（図書資料約61万冊）、国内外の研究者の利用に供するとともに、様々な情報を提供しています。利用者は図書を自由に手にとって閲覧することができます。外部の方でも、学術研究・調査等を目的とする場合であれば、事前申請のうえ閲覧が可能です。

■ 図書館

円形の閲覧室が特徴的な日文研の図書館では、日本研究に必要な各種資料を幅広く収集し、国内外の研究者・学生に活用されています。特に外国語で書かれた日本研究図書等に重点を置いて収集しています。



雑誌資料

図書資料

映像・音響資料

幕末古写真



百鬼夜行絵巻

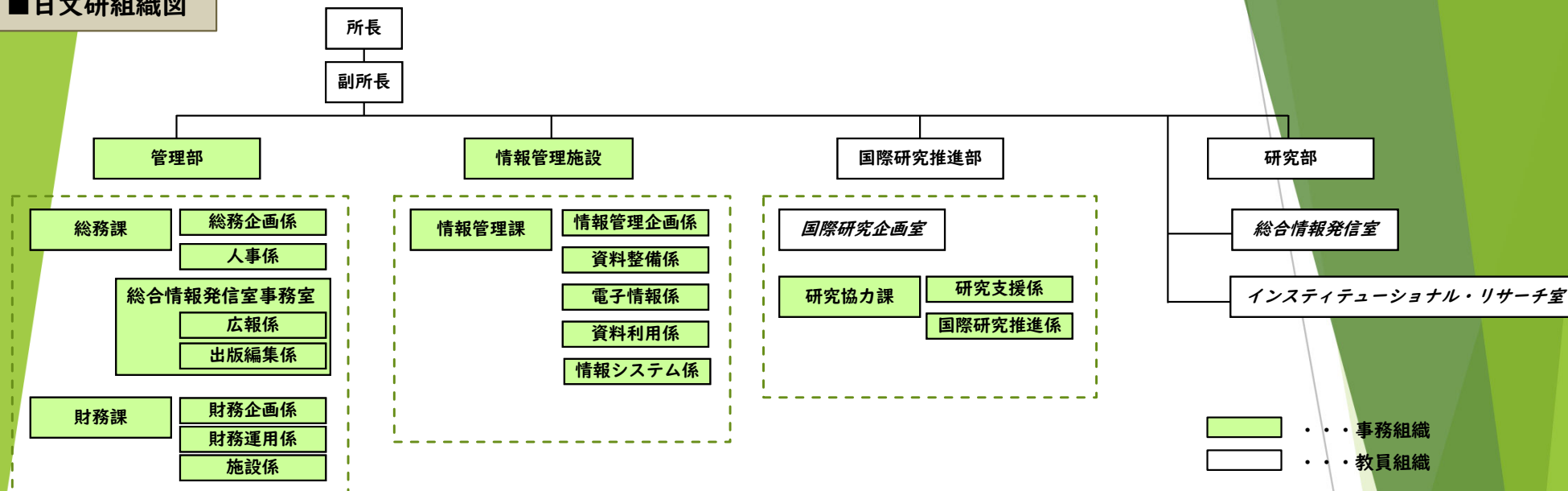


浪曲SPレコード



日本関係欧文貴重書

■ 日文研組織図



■ 教職員数 (令和7年4月1日現在)

事務職員等 41名	
管理職 (部長、課長)	5名
事務職員	30名 (うち図書系 6名)
技術職員	3名 (うち施設系 1名)
特任専門職員	3名 (うち施設系 1名)
非常勤職員 42名	
契約職員	6名
パートタイム職員	36名

研究教育職員 33名

教授	14名
准教授	6名
助教	4名
非常勤研究員	9名

【参考】事務職員+技術職員 33名のうち

◇ 男女比率
男性職員: 15名, 女性職員: 18名

◇ うち、近隣大学等からの人事交流者 3名

■ 管理部及び国際研究推進部の仕事

所の運営並びに研究者のサポートを行う組織です。ここは、事務系（総務・財務・研究協力）、施設系の職員で構成されています。

◆ 総務課

＜＜総務企画係＞＞

- 事務の総括および連絡調整
- 諸行事・会議の運営
- 諸規程の制定及び改廃
- 危機管理関係
- 中期目標・中期計画の策定および評価に関すること
- IR室に関すること
- 情報公開、個人情報保護に関すること

＜＜人事係＞＞

- 教職員の採用、給与、研修等
- 教職員の労働時間、服務
- 教職員の健康安全管理、福利厚生

＜＜広報係＞＞

- 広報に関する企画・立案
- 日文研が主催するイベントに関すること
- 一般広報、プレスリリース
- 報道機関等への対応
- 『日文研』、NICHIBUNKEN NEWSLETTER、『要覧』『概要』発行
- ホームページの新規掲載・更新
- 日文研公式SNS（Twitter、Facebook、YouTube）に関すること

＜＜出版編集係＞＞

- 日文研出版物の編集・構成、発送、在庫管理



創立30周年記念式典



報道関係者との懇談会

◆財務課

＜＜財務企画係＞＞

- 予算の立案・要求・配分・管理
- 固定資産等の管理
- 防災管理
- 現金の出納、収入、支出
- 謝金の経理

＜＜財務運用係＞＞

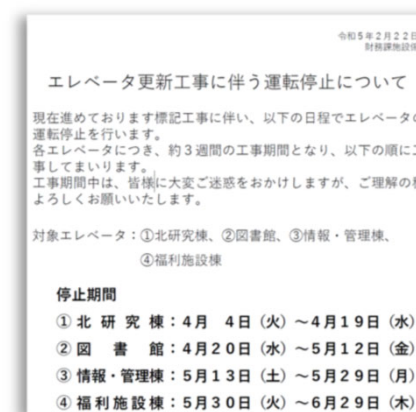
- 物品等の契約、管理、処分
- 建物の警備、清掃に関すること
- 旅費の経理

＜＜施設係＞＞

- 施設の維持管理、安全管理、保全
- 工事契約及び施設整備
- 防災対策



防災訓練実施の様子



工事に伴う所内周知

◆研究協力課

《研究支援係》

- 科研費等の外部資金の申請・受入れ
- 共同研究に関すること
- 総合研究大学院大学の学生支援
- 知的財産、安全保障輸出管理に関すること
- 研究不正、公的研究費不正使用防止に関すること



日中妖怪研究シンポジウム

《国際研究推進係※》

- 外国人研究員の公募・受入れ、外来研究員の受入れに関すること
- 国際研究集会、海外シンポジウムの実施
- 「国際日本研究」コンソーシアムに関すること
- 海外の研究機関との交流協定の締結に関すること など

※PCやスマートフォンから下記URLをクリックいただくか、検索サイトで入力していただくと、国際研究推進係長の1日などをご覧いただくことができます。

参考：近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験事務室ホームページより

<https://kinki-ssj.adm.kyoto-u.ac.jp/work/voice/careerpath/#kakaricho>

■情報管理施設の仕事

日本文化に関する資料を整理・保管して、研究者たちの利用に供するとともに、これらに関する情報管理システムについて開発研究を行っています。ここには、事務系、技術系の職員が配置されています。

◆情報管理課

＜＜情報管理企画係＞＞

- 情報管理課の総括及び連絡調整
- 所掌委員会の運営

＜＜資料整備係＞＞

- 日本研究図書・寄贈図書の収書、選定
- 文献資料（図書、地図、映像、音響等の資料）の購入
- 文献資料等の所蔵目録データベースの構築



「浪曲SPレコード デジタルアーカイブ」公開

＜＜電子情報係＞＞

- 文化資料のデジタル化およびデータベース構築
- デジタル化された文化資料利用に関する技術支援及び研究相談支援

＜＜資料利用係＞＞

- 図書等の閲覧、貸出
- 図書館からの書籍取り寄せ 等

＜＜情報システム係＞＞

- 研究支援システムの開発。運用及び利用支援
- パソコン、サーバ、ネットワークの運用及び利用支援
- 情報システム及び情報セキュリティに関すること



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

総合地球環境学研究所





大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

総合地球環境学研究所



略して地球研！

総合地球環境学研究所（地球研）の概要

2001年4月 文部科学省・大学共同利用機関として創設
(15番目の直轄研究所)

地球環境問題の解決に向けた
学問的基盤形成のための
総合研究に特化した中核機関



大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

総合地球環境学研究所
京都市北区上賀茂本山467-4

国際日本文化研究センター
京都市西京区御陵大枝山町3-2

国立民族学博物館
大阪府吹田市千里万博公園10-1
(万博公園内)

人間文化研究機構
東京都港区虎ノ門4-3-13
神谷町セントラルプレイス2階

国立歴史民俗博物館
千葉県佐倉市城内町117

国文学研究資料館
東京都立川市緑町10-3



日高敏隆(初代所長)



立本成文(第2代所長)



安成哲三(第3代所長)



山極壽一(第4代所長)
2021.4～現在在任

地球研って何をしているところ？

【理念・達成目標】

地球研は、下記のようなビジョンとミッションを掲げ、
地球環境問題の解決への貢献をめざした研究活動を進めます。

▶ ビジョン

地球研は、地球スケールで地域から人と自然の関係のあるべき姿を描き、
平等かつ公平で、未来可能な地球社会の実現を目指します。

▶ ミッション

大学単独ではできない研究基盤を提供し、
人文学・社会科学・自然科学の文理融合による学際研究に加え、
社会と連携・協働した超学際研究により、
「人と自然の相互作用環」を根源的かつ包括的に理解し、
地球環境問題の解決に向けた実践を目指す「総合地球環境学」を先導します。





大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

総合地球環境学研究所



Research Institute for
Humanity and Nature



地球環境問題の根源は、自然に挑み支配しようとしてきた人間の生き方、
いかえれば、ことばの最も広い意味における**人間の「文化」**の問題である
という基本認識（日高敏隆初代所長のことば）

そしてこの**複雑な人間という存在と自然との多様な関係の解明**を目指すこと
を示すResearch Institute for Humanity and Nature (RIHN)という英語名

理系・文系などといった分野を超えた**真の総合**を実現するための
研究プロジェクト方式

令和7年度現在の地球研研究プロジェクト

■ 環境文化創成プログラム

[プログラム詳細はこちら](#)



有機物循環プロジェクト

都市ー農村の有機物循環とそのシステム構築に関する実践研究ー地域の価値観と科学的知見の融合をめざしてー



SceNEプロジェクト

科学とアートの融合による環境変動にレジリエントな在来知の高解像度復原と未来集合知への展開



Fashloksプロジェクト

地域知と科学との対話による公正で持続的な狩猟マネジメント

■ 土地利用革新のための知の集約プログラム

[プログラム詳細はこちら](#)



FairFrontiersプロジェクト

社会生態システム転換における公平性：熱帯森林フロンティアの政治・権力・不確実性



SATOCNNプロジェクト

里山のつながりをとりもどす：コミュニティとつくるレジリエントで“ネーチャー・クライメートポジティブ”な土地利用の未来

■ 地球人間システムの共創プログラム

[プログラム詳細はこちら](#)



LINKAGEプロジェクト

陸と海をつなぐ水循環を軸としたマルチリソースの順応的ガバナンス：サンゴ礁島嶼系での展開

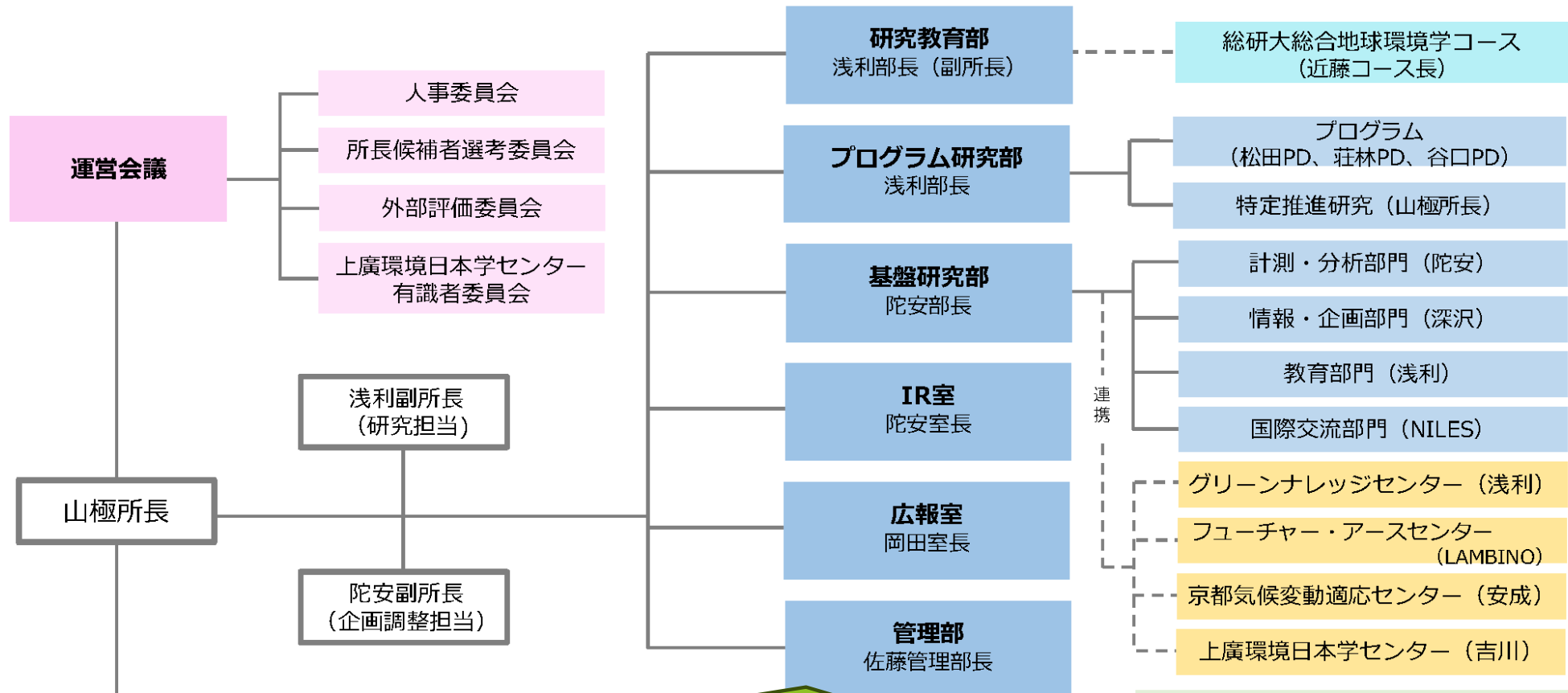


Sustai-N-able (SusN) プロジェクト

人・社会・自然をつないでめぐる窒素の持続可能な利用に向けて

定められたプロジェクト期間内で、国内外の共同研究者と協力し、各プロジェクトの目標達成に向けた研究活動を実施しています。

総合地球環境学研究所組織図



管理部	総務課 (総務企画係、人事係)
	研究支援課 (研究企画係、共同利用係、国際交流係、情報・図書係)
	財務課 (財務企画係、施設管理係、調達係、経理係)
	業務監査室

地球研の職員構成 (R7.4.1時点)

	男性	女性	外国人
研究教育職員	18	6	5
研究員等	7	8	5
事務職員	13	12	0
補佐員・推進員等	4	55	6
合計	42	81	16

●女性職員 61.1%

●外国人の割合 12.6%

《外国人の出身国》

アメリカ、インド、インドネシア、カナダ、カメルーン、韓国、中国、バングラデシュ、フィジー、フィリピン、ベトナム、マリ、マレーシア、ミャンマー

その他、招へい外国人研究員 (R6年度はアメリカとイギリスから)



外国語（英語）を使ったコミュニケーション力が
事務系職員にも求められています。
語学に関心のある方大歓迎です！



事務職員の職務区分

試験区分
「事務」



総務・評価系	連絡調整、会議運営、所内規則改廃、文書管理、中期目標・中期計画等法人評価対応、所の自己点検評価・外部評価対応、危機管理 等
人事系	採用、給与、福利厚生、健康診断、労働安全衛生管理、ハラスメント防止 等
財務系	予算、決算、財務分析、契約、資産管理収入及び支払 等
研究協力系	研究提案公募、研究プログラム評価、研究支援、外部資金、知的財産管理、共同研究、産学官連携、情報ネットワーク・セキュリティ、総合研究大学院大学 等
国際交流系	海外からの研究者受入支援、国際シンポ運営支援、外国出張（野外調査含む）の危機管理、学術交流協定 等
広報系	研究成果の発信、HP・SNS運営、イベント出展、広報グッズ、メディア対応 等

職員の日

令和3年度採用（中途採用）/総務企画係
月例の教員会議/全所員参加の所員連絡会/各種とりまとめ対応 等

8:30

出勤/会議準備

- ・会場設営
- ・資料準備(印刷/iPad)
- ・Zoomの接続確認
- ・画面共有資料の確認
- ・翻訳アプリの連携 等

10:00

教員会議

*大学の教授会相当

- ・教員の出欠確認
- ・会議資料の画面共有
- ・挙手等による出席者のアクションの確認

12:15

昼休み



Point! 外国人の参加者も多いので各種会議は英語翻訳付き！

13:00

所員連絡会準備/開催

- ・画面共有資料の確認
- ・英訳資料の準備/確認
- ・参加者の出欠確認
- ・会議資料の画面共有 等

14:30

安否確認システムの登録案内

大規模災害時の所員の安否確認システムの登録や所員への説明 等

15:30

機構本部の通知対応

人間文化研究機構本部から各機関に通知される事項を所内の関係各課/係へ展開、とりまとめのうえ回答

16:15

係内MTG

各職員の作業予定の共有や報告、相談

17:00

退勤



職員の声

入所10年目 2015年度統一採用試験受験

これまでの勤務経験

1～2年目	総務企画係	会議設営・準備、評価資料作成、各種イベントの運営
3～4年目	調達係	物品の発注・検収、契約書の締結、予算の執行
5～8年目	人事係	職員の任免手続き、給与の計算、社会保険等の手続き
9年目～	研究企画係	研究の審査・評価等関連、研究倫理審査、調査・委員会対応

業務で大変だったこと

研究所設立20周年行事の運営を担当した際は、イベントに向けて各方面への連絡や事前の準備などで想定することがたくさんあり、大変苦劳しました。

上司や係内の職員と意見を交換することで、徐々に実際の会場の様子や行事進行のイメージを共有できるようになり、多く来賓のあった行事を滞りなく運営することが出来ました。

地球研ならではの経験・メリット

- ① 他の国立大学等と比べて規模が小さい組織なので、研究所全体の流れが自分の業務に直結することが少なくなく、仕事の成果への実感が持ちやすい。
- ② 研究部との距離が近いので、研究者の人たちと接する機会がとても多い。
- ③ 職場で野生動物と出会うことがある（シカ、キジ、アナグマなどなど）

職員の声

入所13年目 2012年度統一採用試験受験

研究協力係 (現 研究企画係)	研究プロジェクトの公募・審査、研究審査報告会や評価委員会の運営、 科学研究費助成事業の申請や手続き
広報室	研究成果の発信、一般向け公開イベントや各種セミナーの企画・運営、 広報物の作成、学会等への出展、メディア対応
人事係	職員の採用・退職、給与の計算、社会保険等の手続き、安全衛生管理

大変だったこと・得たこと

- ・ 国内外の外部委員を招く評価委員会（英語）では、語学力の無さに歯がゆい思いをしたので、自主的に英語学習を続け、業務や日常生活で英語を活かす機会が増えた。自分には無理だと思いこんでいた英語を、勉強して力にできたことが自信になった。（研究協力係）
- ・ 科研費の獲得に向けた新しい試みを企画・実施した。先生方の協力が不可欠な分困難も多かったが、実際に採択された研究者から感謝の言葉をいただきやりがいを感じた。（研究協力係）
- ・ 広報室では、一般公開イベントに合わせてやり方を工夫してメディアに連絡を取った結果、NHKの取材につながった。一方で、テレビを見た方が公開日でない日にイベントを期待して来所してしまうことがあり、発信には注意が必要なことを学んだ。（広報室）

地球研ならではの経験・メリット

- ・ 若手職員が提案したことを実施できる環境がある。（その分苦労もある！）
- ・ フレックス制度や育休取得等が気軽に利用でき、自分に合った働き方ができる。





地球研ホームページ
<https://www.chikyu.ac.jp/>



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構



国立民族学博物館





“中央パティオ「未来の遺跡」”

博物館は、未来をつくりだす装置です。未来から見れば、今あなたがいる、この博物館全体が、ひとつの遺跡に見えるかもしれません。

博物館のもつ、このような時間を超えるあり方にちなんで、私たちは、この巨大な石積みの中庭を「未来の遺跡」と名づけました。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館



博物館は、文明の過去を整理し、現在を再編成して、未来につないでゆく、そういう、時代をこえた文明の伝達装置であるとわたしはかんがえています。・・・・・・博物館では、過去、現在、未来にかけて、自由にタイムスリップすることができます。

（初代館長・梅棹忠夫「博物館は未来をめざす」1985年）



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館

■博物館をもった研究所

- 国立民族学博物館（みんぱく）は、単なる博物館ではありません。大学共同利用機関として設置された、博物館機能を持ち、かつ大学院教育（総合研究大学院大学の人類文化研究コースを設置）を行う文化人類学と民族学の研究所です。
- みんぱくは、文化人類学・民族学とその関連分野の大学共同利用機関として、1974年に創設され、1977年に大阪・千里の70年万博跡地（現・万博記念公園）内に開館され、2024年には創設50周年を迎えました。
- みんぱくの研究者は、世界各地でフィールドワークに従事し、人類文化の多様性と共通性、そして地球規模でのつながりの中での社会の動態について調査研究を行っています。
- 文化人類学関係の単体の教育研究機関として、世界全域をカバーする研究者の陣容と研究組織を持ち、さらには博物館機能も備えているという点で、みんぱくは、世界で唯一の存在です。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館

■博物館をもった研究所

- みんぱくがこれまでに世界中から収集した標本資料、モノの資料は約34万6千点になります。20世紀後半以降に築かれた民族学コレクションとしては世界最大です。
- みんぱくは、博物館施設の規模の上でも、世界最大級の民族学博物館です。
- みんぱくは、こうした世界にも類を見ない学術資源を基礎に、人類の文化と社会についての理解、自己と他者の認識についての理解を深め、人類共生のための指針を示す「グローバル人間共生科学の創成」をめざして活動しています。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館

■みんなくプロフィール

《研究所》

文化人類学・民族学及び関連する諸分野の研究をおこない、我が国の文化人類学・民族学研究のセンターとしてその機能を発揮しています。全国の大学や研究機関との学術交流を活発に行い、館外の多くの研究者の協力も得て、共同研究などを通して、世界の諸民族の文化と社会及びグローバル化現象に伴う変化の研究を進めています。

《情報センター》

研究に基づき、諸民族の生活を知るための標本資料、諸民族の社会と文化に関する映像・音響資料、文献図書資料、HRAF (Human Relations Area Files)などの諸資料を収集し、幅広い研究のための基礎的な資料や情報の整備をおこなっています。これらに関する情報を、コンピュータを活用したデータベースの構築を通じて国内外の研究者へ提供しています。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館

■ みんなくプロフィール

《展示》

最先端の研究成果を展示を通じて公開しています。本館展示は、世界をオセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、それに日本を含むアジア各地域に分け、東周りに世界を一周する「地域展示」、音楽・言語というテーマで世界の民族文化を紹介する「通文化展示」で構成されています。また、特定のテーマや内容にそった特別展や企画展も定期的を開催しています。

《社会還元》

最先端の研究成果を一般に公開するため、学術講演会、みんなくゼミナール、みんなくウィークエンド・サロン、研究公演、みんなく映画会や様々なワークショップなどをおこなっています。また、博物館学コースや技術研修などさまざまなプロジェクトを通して国際協力に貢献しています。

《大学院教育》

大学共同利用機関を基盤として設置された総合研究大学院大学の人類文化研究コース（博士後期課程）がおかれ、高度の大学院教育をおこない、創造性豊かな研究者を育成しています。

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構



国立民族学博物館

みんなの展示場を少しだけご紹介します。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館

■ オセアニア展示場



■ アメリカ展示場



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構



国立民族学博物館

■ アフリカ展示場



■ ヨーロッパ展示場



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構



国立民族学博物館

■西アジア展示場



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構



国立民族学博物館

■南アジア展示場



■東南アジア展示場



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館

■ 中国地域の文化展示場



■ 朝鮮半島の文化展示場



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構



国立民族学博物館

■ 中央・北アジア展示場



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構



国立民族学博物館

■ アイヌの文化展示場



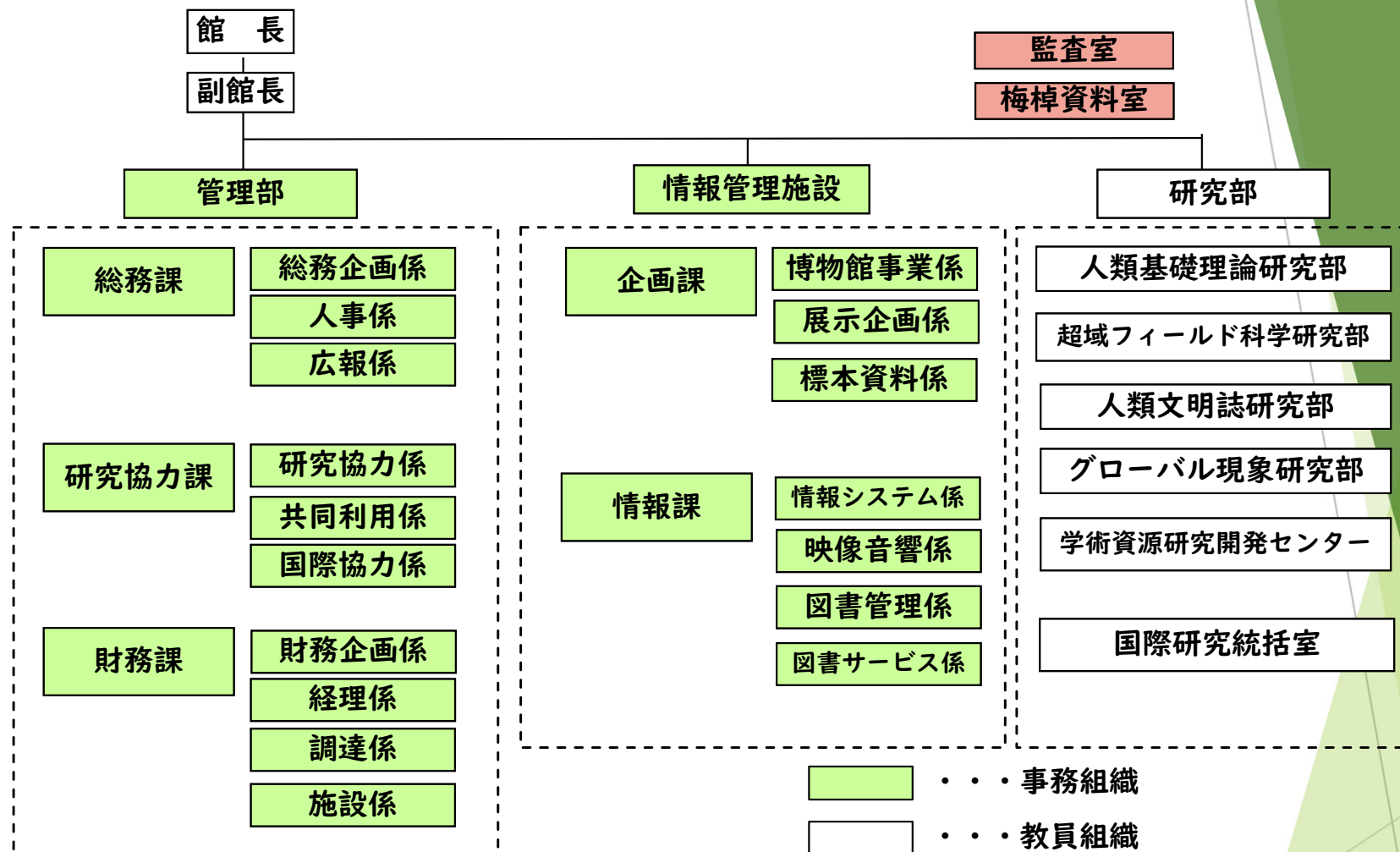
■ 日本の文化展示場



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館

■ みんなの組織図



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構



国立民族学博物館

■教職員数（令和7年4月1日現在）

事務職員等 48名

管理職（部長、課長）6名

事務職員 36名（うち図書系2名）

技術職員 2名（うち施設系2名）

特任専門職員（事務）1名

再任用職員 3名

非常勤職員 108名

契約職員 13名

パートタイム職員 95名

研究教育職員 59名

教授 22名

准教授 18名

助教 10名

特任助教 1名

非常勤研究員 11名

【参考】事務職員＋技術職員38名のうち

➤男女比率

男性職員：16名，女性職員：22名

➤うち、近隣大学等からの人事交流者11名



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館

■管理部の仕事

総務系、研究協力系及び財務系といった館の運営並びに研究者のサポートを行う組織です。

◆総務課

組織全体を円滑に運営し、そこで働くすべての職員を支えます。

＜総務企画係＞

- 事務の総括および連絡調整
- 諸行事・会議の運営
- 規程の制定及び改廃
- 危機管理関係
- 国立大学法人評価委員会等による評価
- 中期目標・中期計画及び年度計画の策定
- I R（インスティテューショナル・リサーチ）関係



特別展 特別公開式典

＜人事係＞

- 教職員の採用、給与、研修等
- 教職員の労働時間、服務
- 教職員の健康安全管理、福利厚生



＜広報係＞

- 広報に関する企画・立案
- 館外における広報展開
- 報道機関等への対応
- 月刊みんぱく及び広報に係る出版
- ホームページに関すること



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構



国立民族学博物館

■管理部の仕事

◆研究協力課

学術研究の奨励と助成、海外との学術交流を推進します。

《研究協力係》

- 科研費等の外部資金の申請・受入れ
- 民間との共同研究及び受託研究の受入れ
- 総合研究大学院大学の学生支援

《共同利用係》

- 共同研究の推進
- 学術研究成果に係る出版物の編集事業

《国際協力係》

- 外国人研究員、外来研究員の受入れ
- 外国の大学、研究機関等との学術交流協定の締結



公開講演会（於：東京）



国際シンポジウム「学際
研究とフォーラム型情報
ミュージアム」

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構



国立民族学博物館

■管理部の仕事

◆財務課

組織の運営に関わる財務基盤の確立と予算・設備を管理します。

＜＜財務企画係＞＞

- 予算の立案・要求・配分・管理
- 経営分析資料の作成
- 固定資産等の管理

＜＜経理係＞＞

- 給与の経理に関すること
- 出張旅費・謝金等の支給及び税金の徴収
- 外部資金の経理に関すること

＜＜調達係＞＞

- 物品購入・役務等の契約

＜＜施設係＞＞

- 建物、設備及び敷地内環境の整備計画、維持管理
- 工事及び施設整備の保守・運転管理



※PCやスマートフォンから下記URLをクリックいただくか、検索サイトで入力していただくと、財務企画係主任の1日などをご覧いただくことができます。

参考：近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験事務室ホームページより

<https://kinki-ssj.adm.kyoto-u.ac.jp/work/voice/zaimu/>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構



国立民族学博物館

■情報管理施設の仕事

みんなの機能のうち、「展示公開」「情報センター」「社会還元」の担い手となる特徴的な組織が情報管理施設です。また、標本資料をはじめ様々な資料を管理保存し、研究者へ提供するなど研究活動を推進する上でも重要な役割を担っています。

◆企画課（※）

博物館における普及事業や収蔵庫の管理から展示の企画まで支援します。

＜＜博物館事業係＞＞

- イベント（みんなのゼミナール、映画会及び研究公演）の企画
- 入館者の受入対応及びサービスの充実
- 普及・社会連携事業
- ボランティア活動の支援及び社会教育活動の普及



研究公演「共振する大地のリズム」

＜＜展示企画係＞＞

- 展示及び展示関連事業の企画・立案及び運営

＜＜標本資料係＞＞

- 標本資料の受入れ（搬入）から収蔵
- 標本資料の貸出、利用の許可
- 企画展、特別展の際の資料演示作業
- 生物調査、防虫処理、クリーニングなど



標本資料収蔵庫

※企画課の業務を行うにあたり、学芸員資格の取得について必須ではありません。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館

■情報管理施設の仕事

◆情報課

映像・音響資料の作成と整備及びコンピュータシステムを管理・運用、文化人類学・民族学の専門図書における資料管理、利用者サービス

＜＜情報システム係＞＞

- 情報システムの整備、管理及び運用
- 情報セキュリティ対策

＜＜映像音響係＞＞

- 展示場の情報提供システムの企画及び整備
- 映像・音響資料の受入れ及び管理

＜＜図書管理係＞＞

- 文献図書資料等の受入・整理業務

＜＜図書サービス係＞＞

- 文献図書資料等に係る情報サービス



雑誌コーナー



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館

ご質問等ありましたら、下記までお問い合わせ
わせください。

問い合わせ先：

国際日本文化研究センター 人事係

jinji*nichibun.ac.jp

（＊を@に置き換えてください）

地球研や民博に関する質問につきましても
受け付けます。

機関訪問、第2次試験の日程については、令和7年7月17日(木)以降に発表予定です。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国際日本文化研究センター
International Research Center for Japanese Studies



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所

**ご清聴ありがとうございました。
皆様のご応募をお待ちしております。**



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立民族学博物館



大学共同利用機関法人
人間文化研究機構